

# 地域の人々と芸術・文化を発信する

札幌市・仮認定NPO法人コンカリーニョ

石造りの倉庫から始まった芸術・文化活動は、今や札幌のアートシーンに欠かせない存在感を放っている。NPO法人コンカリーニョは札幌市内で最も古い歴史をもつ西区琴似・八軒界隈を拠点に、「生活支援型文化施設コンカリーニョ」を運営し、様々なプログラムや劇場文化に関する事業を立案・運営している。

法人名の「con carino（コンカリーニョ）」とは手紙の末尾などに慣用的に添えられる「愛をこめて」を意味するスペイン語。「すべての人々に“愛をこめて”舞台芸術を届けたい、しかも身近に」という思いでつけられた。

設立から現在まで理事長を務め、演出家・プロデューサーでもある斎藤ちずさんは、愛媛県出身。北海道大学在学中に演劇を始め、1986年（昭和61年）に札幌ロマンチカシアター鮎鱒舎（ほうぼうしゃ）の創設に女優・会計係として参加。1988年、劇団の劇場兼稽古場を探しているときに、JR琴似駅北にある使われなくなった古い石造り倉庫をみつけた。もともと日本食品製造合資会社（通称・日食）の缶詰工場だったことから、「琴似日食倉庫コンカリーニョ」と名づけて劇団で使うことにした。

1994年（平成6年）の最終公演で照明を担当し、設立当時から理事を務めている高橋正和さんが「劇団だけで使うのではなく、貸すことでもっとみんなが遊べる場所

にしないか」と倉庫を新たにフリースペースとして運営することを発案。それがきっかけとなり、1995年、劇団が活動休止となると共に、斎藤さんや高橋さんら6人で劇場運営や舞台製作などの活動を開始することになった。

以来、建物のもつ古い独特な佇まいとスタッフの熱意によって芸術的なコミュニティの拠点として札幌の舞台関係者や道内外のアーティストに支持されてきた。

しかし、2002年（平成14年）8月にはその活動をいったん休止することとなる。JR琴似駅北口地区の再開発事業に伴い、倉庫を解体することが決まったからだ。

倉庫の解体に対し、演劇活動をしている若い人たちから惜しむ声や「反対運動をしなくていいのか？」という声もあがったが、『「火事だけは出さないでね』という約束だけで、好意的に劇団時代から貸してくれていた大家さん個人の持ち物に対して、反対運動するというのは筋違いと思い、それはしませんでした」（斎藤さん）。

その後、この施設の周辺住民や行政、再開発組合など支持者が中心となり、ハード設計や再開発組合との折衝、資金調達など再建活動を行い、現在劇場のあるJR琴似駅北側に立つ高層マンション隣の商業棟と賃貸契約を結んだ。

2003年には倉庫が解体されたが、同年9月にコンカリーニョはNPO法人に

認証された。

取り壊しが決まったときには多くの人から連絡がきたが、特に大学時代の後輩女性からきたメールが再建活動への原動力になったという。「彼女から『取り壊しになるみたいですがどうするんですか?』というメールをもらった。彼女は市役所に勤めていたので再開発に詳しい人を紹介してくれたり、再建活動にも協力してくれたりしました。あのときメールがなかったら『続けたいけれどどうしようもない』とあきらめて、再建活動はできなかったと思います」と斎藤さん。

民間からの寄付 1600 万円や銀行からの融資など多くの民間支援によって、内装工事費約 4300 万円をかけ、2006 年(平成 18 年) 5 月 7 日、再オープンすることができた。

## ■ 地元住民が出演する

### 「温故知新音楽劇」

劇場の客席数は通常 173 席、最大 250 席で演劇やダンス公演、コンサートなど幅広く上演しており、特に演劇分野では話題作や、札幌の町を演劇で活性化するプロジェクト「札幌演劇シーズン」においてコンカリーニョのプロデュース作品も上演している。

レンタル料金を支払えば演劇はもちろんフォーラムや各種発表会など誰でも劇場や稽古場を利用することができる。

コンカリーニョの年間入場者数は約 2 万人だが、目標は 6 万人としている。財政的には厳しい状況だという。

実施事業として、毎年、骨董市や夏祭り、新年餅つき大会などのイベントを行い、地

域に開放し、地域の人々と交流を図っている。また、札幌市の緊急雇用創出推進事業である、すすきの若者地域活性化プロジェクトを市から委託。若者で構成された「すすきの盛り上げ隊」がシンポジウムや講座などのイベントを企画し、すすきの街を盛り上げた。このほか、子供たちを対象にした演劇教室や文化体験講座、演劇関連のワークショップなども開催している。

中でも最も反響が大きく、地元住民にとっても欠かせない事業となっているのが、「温故知新音楽劇」。住民が出演して、歌ったり、踊ったりする創作劇で、屯田兵など地域の歴史を題材にしている。出演者は西区在住か西区に勤めている人、もしくはコンカリーニョの会員。1 回の舞台で 20 人ほどが出演し、これまで子供からお年寄りまで幅広い世代が参加している。中には親子で参加する人もいるという。住民は出演者としてだけではなくスタッフとしても活躍し、裏方を支えている。



「温故知新音楽劇」では住民たちの熱の入った演技に魅せられた

当初は助成金のみで上演していたが、それがなくなり経済的に苦しい状況になっても、参加者からの「やめないで」という継続を望む声や大人1万円、子供3000円の参加費や、協賛金を求めることでこれまで続けてきた。

近所に住む女性は自分の商売も畳んで時間ができたからと1回目から長年参加し続け、「『コンカリーニョに出会ったことで私は人生が変わりました』と言ってくれました。こんなにうれしいことはないですよ」と斎藤さん。

記念すべき10回目となる2016年の公演ではいままでの出演者にも声をかけ、倍以上の50人ほどの出演者で、コンカリーニョの誕生秘話を題材に上演する。

今後は、地域の名手など個人にスポットを当てた音楽劇にすることで、「舞台制作の依頼が企業からもくるのでは」と斎藤さんは期待している。



地元住民でにぎわう好評の骨董市

### ■ 3館を職員8人で運営

同会はコンカリーニョのほかに2つの施設の運営にも携わっている。

ターミナルプラザことにパトス(札幌市西区)は地域の芸術・文化活動の推進を目的とした施設で、2004年(平成19年)から劇場運営のノウハウを見込まれ、札幌市から管理・運営を委託。イベントホール

や練習スタジオ、ギャラリーなどが設置されている。「温故知新音楽劇」は、琴似の劇場がオープンする前の2005年、この施設から上演が始まっている。

あけぼのアート&コミュニティーセンター(札幌市中央区)は2004年に閉校した旧曙小学校跡施設が札幌市によって、文化芸術を発信する施設として再整備され、再活用されることになった施設で、2009年(平成21年)から運営している。劇団の稽古場として使われたり、体育館もあるためサッカーやテニスなどのスポーツにも利用されたりしている。

3館を斎藤さんも含めて8人の職員で管理・運営している。職員の中には、学生時代から舞台やボランティアで参加したことから、職員になる人もいる。職員として最も長く勤め、4年前からは理事にもなっている大江芳樹さんは、「学生の劇団で音響を担当していて、以前の倉庫を使っていました。その時代から10年以上コンカリーニョの活動に携わってきました。一つの舞台を作りあげる、その中にあることのできる喜びや、お客さんの表情、感触が直接伝わる臨場感を味わえるのが醍醐味ですね」と語る。

理事は15人で脚本家や建築士、管理栄養士など職業は様々。その中の4人が職員と兼任し、そのうち2人が正職員として、2人がパート職員として働いている。定例会は2カ月に1回実施している。

### ■ 2016年は「第2次創業」の年

活動には職員や理事だけでなく、「カリット」と呼んでいるボランティア会員の存在も欠かせない。イベントの運営のほか、公演日の当日スタッフや事務など舞台の



裏方の仕事に関わっていくこともでき、50人ほどの登録者がいるが、実働しているのは5、6人ほどだという。

「ボランティアの方たちが取り組みたくなるような仕事をつくらなければならないのですが、システムづくりがまだうまくできていません。今後は、演劇を志す学生などの若い世代や地域のママ世代、シニア世代などにグループ分けしてグループごとにミーティングしたり、大きなイベントに関わってもらえたりするように体制を整えていきたい」と斎藤さん。そのために職員の誰かにボランティアのコーディネートを任せたいという。



こどもたちの文化体験講座ではバルーン制作を体験

ボランティアに関する課題も含めて、開設から10年目となる2016年、もう1度基礎固めの年にしたいと斎藤さんは意気込む。

「1年かけて成果に結び付けられるような体制にしてきたい。ただ、システムだけをつくっても人と人とが信頼しあっていない限りは何もできません。今年は私たちがもともと持っている資源＝人を活かしていくために『資源増強年』と位置づけ、次の10年に進みたいと思っています」

その次の10年に進むための鍵となるのが「若い職員の成長」だという。

「自分たちで自主的に動いて、新規事業を開拓したり、これまでお世話になってきた地域の方々とのコンタクトを積極的にとったりしてほしいですね。今はその窓口が私しかないのですが、職員を地域の方たちに覚えてもらって、『ちずさんのコンカリーニョ』ではなく、『コンカリーニョの〇〇君、〇〇さん』のようにコンカリーニョという看板をみんなで支えるようになってほしい」

10周年を機に役職員が何度もディスカッションを重ねて新たに経営理念を作成。さらにホームページも一新した。2016年は「コンカリーニョ満10歳！記念year“アイスルコトニデアオウ”」として、演劇を中心に道内外のアーティストと協働し、選りすぐりのプログラムも実施する予定だ。

今後は、斎藤さんの長年の夢である芸術学校の設立も視野に入れている。

琴似の地で花開き、10周年を迎える今年、コンカリーニョが華々しく2度目のデビューを果たす、その期待感でいっぱいだ。

#### ■ 連絡先

〒063-0841  
札幌市西区八軒1条西1丁目  
ザ・タワープレイス1F

仮認定NPO法人コンカリーニョ  
理事長 斎藤 ちず（さいとう ちず）

TEL：011-615-4859  
FAX：011-615-4866  
Email：mail@concarino.or.jp  
URL：www.concarino.or.jp